

# 令和2年度学校自己評価システムシート(県立越谷北高等学校)

目指す学校像	高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルリーダーを育成する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>すべての教育活動における「主体的・対話的で深い学び」によって、一人一人の生徒の主体性を伸長する</li> <li>理数教育やSSHの取組の充実と「リベラルアーツ」教育の実現によって、グローバル人材としての資質を高める</li> <li>地域と連携し、高い進路目標を掲げ、自己実現を目指す学校の情報を発信し、学校の評価を高める</li> </ol>

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

年度目標		学校自己評価		年度評価(1月30日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	【現状】 ○学習態度は良好だが、受験知識偏重傾向にある。 ○生徒の主体性を伸ばす指導に取り組んでいる。 ○組織的な生徒指導体制は整っている。 【課題】 ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の改善 ②新教育課程の実現に向けた指導の工夫・改善 ③「部活動方針」をふまえた指導の工夫・改善 ④生徒が自ら考え、自律的な生活者となるような指導の工夫・改善	①「主体的・対話的で深い学び」の効果的な実践 ②「学びに向かう力」を高める取組の推進 ③部活動や学校行事の充実 ④意識ある健全な社会人としての資質の育成	a アクティブラーニングの拡充 b リベラルアーツ教育としての授業の実践 c タブレットやプロジェクト等の効果的な活用	ア 協働学習など「思考力・判断力・表現力」向上のための授業実践は増加したか。 イ 生徒の授業への期待が、受験知識偏重から視野の拡大や教養の習得へ変化したか。 ウ タブレットやプロジェクトを活用する授業、教材等のデータの共有は増加したか。	①効果的に実践し、ほぼ達成することができた ア アクティブラーニングなど「思考力・判断力・表現力」を高める授業に取り組んでいる教員 92.5% (▼0.5)【教】 イ 生徒の授業への期待が受験知識偏重から教養の習得等へ変化させることを意識した指導の工夫・改善に取り組んでいる教員85.1%【教】 ウ タブレットやプロジェクトを活用した授業の工夫に取り組んでいる教員85.1% (▲30.7)【教】と大きく増加 ②概ね達成することができた ア 生徒を自主学習に向かわせる意識啓発や課題の精選等に取り組んでいる教員94.0% (▼0.7)【教】 イ 自主学習に取り組む生徒32.7%、家庭学習時間2時間程度以上63.5% ③感染拡大防止の観点から制限下での取り組みとなったが、工夫により概ね実践することができた ア 部活動指導の工夫・改善に取り組み、顧問と生徒、保護者で部活動の目標や計画について共通理解し、信頼関係はできているか。 イ 部活動に対する評価(肯定的評価 3.0以上)は向上し、自由記述内容は向上したか。 ウ 生徒アンケートで文化祭等に関する評価(肯定的評価 3.0以上)は向上したか。
			②「学びに向かう力」を高める取組の推進 ③部活動や学校行事の充実 ④意識ある健全な社会人としての資質の育成	a 学習課題の精選と調整 b 主体的な学習のための意識啓発 c 部活動における顧問と生徒との目標等の共有化 d 部活動と学習活動の両立 e 文化祭等の学校行事の充実	ア 学習課題の内容や量の精選・調整はできたか。 イ 自主学習に取り組む生徒、家庭での学習時間は増加したか。 ア 顧問と生徒、保護者で部活動の目標や計画について共通理解し、信頼関係はできているか。 イ 部活動に対する評価(肯定的評価 3.0以上)は向上し、自由記述内容は向上したか。 ウ 生徒アンケートで文化祭等に関する評価(肯定的評価 3.0以上)は向上したか。
2	【現状】 ○SSH事業が完成年度(中間評価)となる。 ○クロスカリキュラムのシラバスを作成した。 ○「総合的な探究の時間」の取組を開始する。 【課題】 ①理数科の特色を生かしたSSH事業の充実、普通科への拡大 ②グローバル人材としての資質を高める取組、リベラルアーツ教育としてのクロスカリキュラムの充実 ③課題研究や「総合的な探究の時間」など探究活動の充実 ④学習評価の改善	①SSHの取組の充実 ②グローバル人材としての資質の育成 ③計画的・組織的な探究学習への取組、理数探究の充実 ④評価方法の改善	a SSH事業についての情報提供や取組の充実 b クロスカリキュラムの実践の拡充	ア 生徒・保護者アンケートにおける評価(肯定的評価 3.0以上)は向上したか。 イ 生徒研究報告会は適切に実施できたか。 ウ クロスカリキュラムのシラバス及び指導案の作成、授業実践は増加したか。	①概ね効果的に実践することができた ア SSHに対する情報提供に関する肯定的評価67.5% (▲0.1)【保】、期待74.9% (▲0.7)【保】 イ 感染拡大防止の観点から会場と時期を変更して実施し、YouTube配信を実施 ウ クロスカリキュラムのシラバスにもつづいた教科や個人による指導案作成状況46.3% (▼6.3)【教】。1年(7-「水」)授業案9 (▲2)、実施クラスは48、2年(7-「修学旅行」)授業案8 (▲1)、実施クラスは37と増加。 ②感染拡大防止の観点から中止を余儀なくされたものもあるが、できる範囲では十分に達成できた ア グローバル人材としての資質育成の取組参加に向けた意識啓発の実施状況71.6% (▼3.8)【教】 イ カナダ派遣、SSH本台湾研修はコロナのため中止、エンパワメントプログラムは12名(▼1)参加、本校で実施 ウ SSH理数探究発表会において3年生10班が英語による資料作成と発表を実施。2学年では英語による「レポート」を開催 ③ほぼ計画的・組織的に実践に取り組むことができた ア 年間を3つのサイクルに分け、探究学習部と2学年が連携し計画的・組織的に実施することができた イ 学びの過程で問題意識を深めることができたと考えられる生徒96.2% ウ 英語によるプレゼンテーションを実施し、英語による質疑応答を行った ④概ね達成することができた ア 紙ベースで順調に蓄積することができた イ 1、2年はキャリアパスポートの実践を開始することができた ウ 先立校視察は感染拡大防止の観点から実施できなかった エ ポートフォリオやルーブリックなどの評価する方法の研究や試行をしている教員は13.6ポイント増加し52.2%【教】
			a SSH海外研修、カナダ派遣等の海外研修の実施 b グローバル人材としての資質育成の取組への参加意欲の啓発 c プレゼンテーション能力の育成	ア 海外研修の募集・選考・事前指導から実施、事後指導まで適切に実施されたか。 イ カナダ派遣への参加希望生徒、エンパワメントプログラム等の他のプログラムへの参加生徒は増加したか。 ウ 英語によるプレゼンテーションや効果的なスライド作成などプレゼンテーション力は向上したか。	①概ね効果的に実践することができた ア SSHに対する情報提供に関する肯定的評価67.5% (▲0.1)【保】、期待74.9% (▲0.7)【保】 イ 感染拡大防止の観点から会場と時期を変更して実施し、YouTube配信を実施 ウ クロスカリキュラムのシラバスにもつづいた教科や個人による指導案作成状況46.3% (▼6.3)【教】。1年(7-「水」)授業案9 (▲2)、実施クラスは48、2年(7-「修学旅行」)授業案8 (▲1)、実施クラスは37と増加。 ②感染拡大防止の観点から中止を余儀なくされたものもあるが、できる範囲では十分に達成できた ア グローバル人材としての資質育成の取組参加に向けた意識啓発の実施状況71.6% (▼3.8)【教】 イ カナダ派遣、SSH本台湾研修はコロナのため中止、エンパワメントプログラムは12名(▼1)参加、本校で実施 ウ SSH理数探究発表会において3年生10班が英語による資料作成と発表を実施。2学年では英語による「レポート」を開催 ③ほぼ計画的・組織的に実践に取り組むことができた ア 年間を3つのサイクルに分け、探究学習部と2学年が連携し計画的・組織的に実施することができた イ 学びの過程で問題意識を深めることができたと考えられる生徒96.2% ウ 英語によるプレゼンテーションを実施し、英語による質疑応答を行った ④概ね達成することができた ア 紙ベースで順調に蓄積することができた イ 1、2年はキャリアパスポートの実践を開始することができた ウ 先立校視察は感染拡大防止の観点から実施できなかった エ ポートフォリオやルーブリックなどの評価する方法の研究や試行をしている教員は13.6ポイント増加し52.2%【教】
3	【現状】 ○キャリアを意識している生徒が少ない。 ○50%程度の生徒が国立大学進学希望である。 ○情報発信力高めることが求められる。 【課題】 ①卒業生時の姿、「目指す生徒像」についての共通理解の不足 ②大学入試で求められる知識や資質を高める指導の充実 ③HPの充実等による適時・適切な情報提供 ④重点化した小中学校や地域との交流の実施	①目指す生徒像(ディプロマ)をふまえた指導の実践 ②高い進路希望を実現させる取組の充実 ③HPの充実等による適時・適切な情報提供 ④重点化した小中学校や地域との交流の実施	a ディプロマポリシーについての意識の共有 b キャリア(進路目的)を考えさせる指導の充実	ア 「卒業時までどのような資質を身に付けさせるか」について教職員・生徒・保護者の共通認識はできたか。 イ 受験対策だけでなく進路指導(キャリア教育)はできたか。	①それぞれが目指す生徒像を意識した指導を実践しているが意識の共有にはまだ足りず ア 「卒業時までどのような資質を身に付けさせるか」を意識した指導を実践している教員98.5%【教】 イ 受験対策だけでなく進路指導(キャリア教育)に取り組んでいる教員83.6%【教】 ②ほぼ達成することができた ア 1学期中この指導・面談は自粛のため制限された中での実施となったが、夏休み以降は計画通りに適時・適切に実施することができた イ 共通テスト等の大学入試改革に対応した指導に取り組んでいる教員80.6%【教】 ウ 共通テスト5教科受験者は159名、受験率は昨年より2.4ポイント増え44.3% (▲2.4) ③情報発信を充実させ効果的に発信することができた ア 「HPやメール配信は効果的に活用」と肯定的評価92.3% (▲4.7)【保】 イ HP閲覧数は1日平均2955件、ツイッターによる情報発信も開始。 ウ 学校案内は全面改訂した。本校志望者数は10/1現在で1.63倍(▲0.25)、12/15現在で1.46倍(▲0.35)と大きく向上し評価は高まった ④感染拡大防止の観点から部活動や生徒会による地域や中学校等との交流は実施を見送った
			a 受験対応の指導や講習の実施 b 第一希望の進学実現に向けた指導の充実	ア 受験対策指導、生徒個別指導や保護者面談は適時・適切に実施できたか。 イ 共通テスト、英語4技能検定等の大学入試改革への対応はできたか。 ウ 共通テスト5教科受験者の割合は増加したか。	①それぞれが目指す生徒像を意識した指導を実践しているが意識の共有にはまだ足りず ア 「卒業時までどのような資質を身に付けさせるか」を意識した指導を実践している教員98.5%【教】 イ 受験対策だけでなく進路指導(キャリア教育)に取り組んでいる教員83.6%【教】 ②ほぼ達成することができた ア 1学期中この指導・面談は自粛のため制限された中での実施となったが、夏休み以降は計画通りに適時・適切に実施することができた イ 共通テスト等の大学入試改革に対応した指導に取り組んでいる教員80.6%【教】 ウ 共通テスト5教科受験者は159名、受験率は昨年より2.4ポイント増え44.3% (▲2.4) ③情報発信を充実させ効果的に発信することができた ア 「HPやメール配信は効果的に活用」と肯定的評価92.3% (▲4.7)【保】 イ HP閲覧数は1日平均2955件、ツイッターによる情報発信も開始。 ウ 学校案内は全面改訂した。本校志望者数は10/1現在で1.63倍(▲0.25)、12/15現在で1.46倍(▲0.35)と大きく向上し評価は高まった ④感染拡大防止の観点から部活動や生徒会による地域や中学校等との交流は実施を見送った

【教】教員アンケート、【保】保護者アンケート、【生】生徒アンケートにおける回答率を示す

学校関係者評価	実施日 令和3年2月5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>○コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業・分散登校と初めて経験することに對し、迅速に対応し成果を出したことは素晴らしい。学校としてもっと高く評価してほしい。</p> <p>○臨時休業中のオンラインでの朝のSH-IRや面談等の実施により、生徒は安心して休学明けにクラスに入れることができたようた。</p> <p>○コロナ禍で制限下ではあったが、感染拡大防止に配慮しながら行事を実施できたことはよかった。</p> <p>○自主学習に向かわせる意識啓発や課題の精選に取り組んでいる先生が多いことは評価できるが、自主学習に取り組む生徒の割合が高い。何を自主学習として捉えるかを教員と生徒で再確認したほうがよい。</p> <p>○あいさつについてはまだ不十分どころもある。自らあいさつする生徒の増加に向けさらに取り組んでほしい。</p> <p>○SSH活動はクロスカリキュラムなど特徴的な取組を実施しているが、全校的に考えるSSHに対しての肯定的評価が低いのは問題である。クロスカリキュラム等の取組が生徒の中に浸透しSSH活動として意識せずに取り組んでいる証とも考えられるが、さらに全校体制で取り組んでほしい。</p> <p>○SSHに関する先生方の取組が生徒や保護者に十分には伝わっていない。</p> <p>○感染拡大防止への配慮のため中止をせざるを得なかった取組もあるが、制限下ではあるが十分に実践できていた。実施できなかったものも関してはより取組は今後も継続してほしい。</p> <p>○ルーブリックは昨年度の研究は今年度は先行研究の段階であるが、令和4年度からの実施に向けて生徒へ伝えながら研究・試行してほしい。</p> <p>○地域や小中学校との交流が実施できなかったことは残念である。オンラインでの交流も検討したことは評価できる。特別支援学校や幼稚園との評価も今後もしっかり継続してほしい。</p> <p>○アンケートも生徒、保護者と先生の捉え方の違いを比較できる項目をいくつかとりいれてはどうか。</p> <p>○中学校卒業時に最初から私立高校を希望する生徒が増えている。公立高校にも頑張ってもらいたい。</p>